



北海道医歌人会詠草

枯葉

江別 三宅 浩次

枯葉散る並木道を踏みしめて乾いた音に耳傾ける
風一陣過ぎ去りし後に音立せず枯葉は樹々を離れ落ち行く
枯葉とは命尽きたる姿ともあるいは譲る姿とも見え
過去という緑の夏も忘れ果て地に張り付き埋もれ行く枯葉
枯葉にも緑の夏のありしかも冷たい秋に今は曝され

カラマツ

札幌 浜島 泉

開拓の人が育てし 畝ごとの雲まで高きカラマツ樹列
山菜の隠れし女王コシアブラ 聞きしにまさる味はひにして
看取り終へ書類作るに 生まれ日とまかりける日の記載符合す
新しき記念日と言ひ 免許証返納告ぐるその語り口
海の波いかばかり見て その想を練り築きあげ屏風絵とせし
(東山魁夷屏壁画展)

秋に想う

釧路 児玉 昌彦

人生論共に語りし若き日を死に急ぎたる友しのぶ夜
ブライドを棄てれば楽に生きられる? いやその一点が支えなのかも
精一杯生きた人には安らかな最期が待つと言われているのだが
納得の人生なんてあるものか人それぞれの欺瞞と思惑
大量の死を呑み込んで動きゆくヒトの歴史に意味ありやなしや

我らの世代

北広島 古屋雅三知

体制の犠牲となりしや わが世代 学園紛争 むべなるかなと
学区制 結論見ぬ間に打ち切りと 団塊世代は捨石なるや
同窓の輩集えば口に出る旧師に向ける罵詈雑言
悪しき師は我らに何を教えしや 友を押しつけ先んずること
月寒の丘に残せし若き日の想ひの丈を誰に伝えむ

紅葉狩り

函館 水関 清

電柱を登りつめたるその先の 空にあこがれ 葛咲きのぼる
闘いの中でちぎれしラグビーの ジャケットの胸に 桜花三輪
散るように踊りて肩へと流れけり つむりを回し 髪を解く君
萩尾花あと何かしら撫子だ 思い出せずに 秋の道草
錦秋の絵の中を行く 一両車 紅く染まりし乗客の顔

商魂

旭川 稲積 文子

簡単に美人になれると宣伝す 本気にさせる商魂たくまし
餌なしと知らせる顔して吾れを見て 猫は餌皿の前につれ行く
人知れず悲しみに耐える日のあれど 父母友すべてこの世に居らず
早世の父を知らずに育ちしが 吾子らもまた同じ運命
何処から教わりて来し言葉かな オッカーと呼ぶ二人の子供